

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
63

振興協議会だより

〔発行日〕令和5年10月27日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



第10回日本ジオパーク中部ブロック大会

第10回中部ブロック大会が苗場山麓ジオパークを会場に開催されました。苗場山麓ジオパークでは、9年前の日本ジオパーク認定直後に開催されたことに続き2回目の開催地となりました。中部ブロックには、世界ユネスコジオパーク3カ所、日本ジオパーク5カ所、ジオパークを目指している地域1カ所のジオパークがあります。今回は、9月20・21日（水・木）の二日間にわたり8カ所のジオパークの関係者及びジオガイドが集まり、様々な研修が行われました。

開会には、苗場山麓ジオパーク振興協議会会長の桑原悠が挨拶を行いました。続いて、津南小学校6年生が参加者の各テーブルに分かれ、苗場山麓ジオパークの紹介を行いました。さらに、参加ジオパークの方々に質問を行い、各ジオパークについて語っていただきました。子どもたちにとっては、初対面の大人たちに直接質問して話を聞くという日常生活ではできない経験となりました。回答側の各ジオパークの担当者やジオガイドは其々、パンフレットや地図を使って説明をしていました。また、一人一人の発表が終わると拍手が起こる場面もありました。

基調講演では、鳥海山・飛島ジオパークの事務局次長・専任研究員、日本ジオパーク委員会委員でもあり、昨年、苗場山麓ジオパークの再認定審査の審査員を務められた大野希一氏をお招きして「ジオパークにおける防災学習、アクティビティについて」と題してご講演いただきました。前任地の雲仙普賢岳の事例をもとに火山災害についてお話ししていただきました。世界ジオパーク会議のためにモロッコに滞在していた時に地震にあったこともお話しいただきました。火山に対しては、分析や災害を伝えていくことで、予測ができ減災する対応もできる可能性がある。地震に対しては、予測できず、日々の心づもりが重要であると教えていただきました。

パネルディスカッションでは、「防災学習、アクティビティ、認定商品について」をテーマに8ジオパークからそれぞれの事例紹介、課題が発表され、意見交換が行われました。特に討論では、ジオガイドの高齢化、ジオガイドの養成・認定とガイド要請のニーズのバランスが議論されました。また、「観光ツアーとジオツアー」、「観光ガイドとジオガイド」は異なるとの意見を大野氏からコメントいただきました。このことについて今後、認識を深めていく必要があると痛感しました。情報交換会では、苗場山麓ジオパークのジオガイドから、本地域の文化の紹介や伝統芸能である「からす踊り」が披露され、参加者が輪になって踊る光景も見られました。

翌日、朝はあいにくの小雨模様でしたが、ジオラフティングとジオツアーが始まると雨はやみ、無事に行程を回りました。ジオラフティングでは、信濃川の水量が例年より少なかったのですが、逆巻から小下里まで行い、普段見ることができない信濃川兩岸の地形・地質等を見ていただきました。ジオツアーでは、ジオサイトの中条川の崩壊地をはじめ、12年前の長野県北部地震に関わる現地を巡検していただきました。数年ぶりの対面での開催となった中部ブロック大会は、現地を体感することができ、様々な人が出会い、意見を交わして語り合うことができた実りある大会となりました。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

来年度の開催地は、糸魚川ユネスコ世界ジオパークとなっています。今度は、苗場山麓ジオパークから多くの参加者とともに訪れ、交流を深めていきます。



大野希一氏



津南小6年生たちとの交流



ジオラフティング



ジオツアー

❁ 第5回 苗場山麓ジオパーク研究コンクール

小中学生を対象に、夏休みの自由研究として取り組む苗場山麓ジオパーク研究コンクールは今年で5回目となりました。

今回の出品数は19点、関わった児童生徒の数は小学校（津南町・栄村）18人、津南中等教育学校78人の合計96人でした。昨年度までの右肩上がりであった参加数が減少し、少し寂しく思います。研究コンクールに対する啓発がやや足りなかったのではとも思います。また、学校における主に夏休み中の課題については、その縛りがやや弱くなっている感じが見受けられます。

さて今回、苗場山麓ジオパーク振興協議会会長賞を受賞した栄小学校4年の山田駿介さんの研究テーマは、「栄村の民具調べ」です。わらぐつやミノを履いたりかぶったり、自らボツグラに入ってみるなど実際に体験し確かめ、まとめたことが評価されました。栄村歴史文化館「こらっせ」に行き、施設のスタッフに自ら取材し、分かりやすくまとめ上げています。また、副会長賞に選ばれた栄小学校6年島崎夏芽さんの研究は、「小滝に生息する希少種」でした。近年栄村では、希少な蝶の乱獲と転売が大きな問題となっています。その中で、地域の小滝集落における希少な生物（村鳥のブッポウソウやキンランなどの植物）について丹念に調べて記録しました。今回のコンクールでは、栄小学校の取り組みやまとめ方には光るものがありました。

※次回のコンクール実施について要望がありましたらジオパーク研究コンクールの説明会に赴きます。また、夏季休暇期間に相談日を設けています。是非ご活用ください。ジオ・エコ・カルチャーの要素を取り入れた作品がたくさん応募されることを心より願っています。



展示の様子



会長賞 山田俊介さん
「栄村の民具調べ」

❁ 「なぜ自然を守るの？」SDGs 出前授業

8月22日（火）、津南中等教育学校において1年生を対象に、元世界自然保護基金（WWFジャパン）職員の小森繁樹先生をお招きして講演会を開催しました。

1年生はこれまで出前授業（5月）やエリア内巡回（6月）等、苗場山麓ジオパーク研修を実施しています。今回、SDGs（持続可能な開発目標）環境学習として「なぜ自然を守るの？」をテーマにご講演いただきました。小森先生は、先立って「私たちは極めて異常な時代に生きていることを忘れてはいけない」という恩師の言葉を紹介されました。世界において産業革命以降、人口が増加し大量のエネルギーを利用して私たちは生きている。このことが様々な環境問題の主要原因になっている。80億人を超える全世界の人が、アメリカ人並みの生活をしたら地球が5.5個、日本人並みなら2.9個必要になるそうです。

海やサンゴ礁、マングローブ、森林、湿地では、食物連鎖や様々な生態サービスの循環、気候変動、海洋循環、海水面の減少、森林破壊、環境変化などの要因によって失われつつあります。この他に公害、海洋汚染、乱獲、プラスチック問題がもたらす影響についてもお話いただきました。

さらに後半では、事前に生徒たちから受け付けていた質問に対して、一つ一つ丁寧に回答していただきました。全体を通じて、一緒に聞いていた先生方やジオパーク事務局スタッフたちも非常に興味深く勉強になるお話でした。

今後もこのような環境学習の講演会を継続していく予定です。



小森繁樹先生



講演の様子

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

尾池 紀一さん



私の半生とジオパークとの関わり（ガイド No.59 尾池 紀一さん）

私は20代中頃、測量会社に勤務していた。事務所は東京都内にあり、仕事現場は地方で出張だった。会社は大手企業の下請けで、内容は電源開発関連であった。

①九州熊本県の球磨川の上流は人吉市で洪水を予見してダム建設工事に揺れていた。集中豪雨により災害が発生したのは数年前だ。近くに水俣市があり、水俣病の発生源の工場がある。休日に八代市内の居酒屋で馬刺しを賞味したのが忘れられない。地元の民宿に泊ったが、元請会社の倒産危機が起り、中途半端な仕事となった。

②宮城県を流れる北上川沿いにある栗駒山麓は津南町の段丘に似ている所で、森の中に開拓地が残っていた。ここにダムを建設する計画が具体化して測量となった。道路工事が始まっていて、民宿で昼食弁当が出ない日は現場近くの定食食堂で昼を過ごした。

③福島県双葉町の福島第一原発は北に広がる砂浜が現場だった。常磐線双葉駅近くの民宿に滞在し、現場に通った。海岸と常磐線、国道6号線に囲われた地帯で砂地と這松だけの荒涼地で、原発の立地条件として国県、地元、企業の思惑が一致したのだ。民宿は建設業者も滞在していたが、活気あふれる雰囲気ではなかった。海拔数メートル地帯のため、津波に強襲されればひとたまりもないと予見されていたはずだ。第一原発は建設中だった。

柏崎刈羽の用地も同様な荒涼地だったのだろう。

④新潟県津南町では、現場到着日は大割野の伊勢屋旅館に泊まり、翌日穴藤の東電発電所に向かい、地元の民宿に滞在した。中津川を渡る吊り橋は車両通行禁止で、橋の傍の空き地に車を停めて歩いた。当時、橋の対岸に数軒の家があり、民宿や雑貨店もあった。仕事量が多く一か月以上滞在した。翌日、相吉から高野山貯水池に入り、河岸段丘を知らぬ自分にとって、中津川を下にみて広がる段丘に驚いたものだ。仕事の範囲は発電所関連全てで、昭和初期の建設工事の様子を知ることになった。飯山線は、資材運搬用として作られ、船山には電車道という名称が残っている。切明から導水トンネルが掘られ、高野山の貯水池に入る。落差400メートル、直径2メートル近いパイプが発電所内タービンを回す。貯水池にあふれた水は別の導水管で中津川に落とす。前倉地内には作業員用宿舎が作られ、今でもビール瓶が出るという。夕食後、宿から照明用の松明を渡され車を猿飛橋のたもとに止め、逆巻温泉に入りに行った。吉川英治氏が平家物語を執筆されたことを知った。

このような人生を歩んできた中、苗場山麓ジオパークと出逢い、これからも多くの人にその魅力を伝えていきたい。



中津川第一発電所



切明発電所

お知らせ

11月17日(金) 15:00～17:00 ガイドスキルアップ研修「今年度の研修の情報交換」於：津南町総合センター
11月18日(土) 9:00～14:00 歩いて楽しむツアー：結東～石垣田～逆巻温泉（降雪の場合コース変更あり）

奮って
ご参加
ください



高校生の感性で切り取る苗場山麓の景色・フォトバスツアー2023

8月17日（木）に今年で3回目となる高校生を対象としたフォトバスツアーが開催されました。小学生へのジオ学習の展開は盛んですが、中学生へは一部にとどまっている中で、高校生については、このツアーによってジオパークや秋山郷を知ってもらう貴重な機会となっています。広報部会が主催し、ジオガイドやフォトコンテストの審査員をしてくださっている飯塚英春先生と戸谷英利先生を講師にお招きし、ジオパークを題材に撮影したものを情報発信してもらい、さらには、フォトコンテストへの参加へと繋げようという事業です。

当日は十日町高校・十日町総合高校・下高井農林高校・開志国際高校から引率の先生も含め25人から参加いただきました。さらに講師2名、広報部会長、ジオガイド2名の計30名がマイクロバス2台に乗り込み、十日町駅や津南町役場に集まり出発して、秋山郷方面（切明・屋敷・上野原・小赤沢・結東・見玉）を巡りました。ジオサイトでは、柱状節理や鈴木牧之の著書『秋山記行』についてジオガイドから説明を受けました。

私、小島は新米ジオガイドとして、バスに乗り込み秋山郷を案内しました。各高校で写真に親しんでいるみなさんですが、秋山郷が初めてという学生や、ジオパークに触れるのが初めての学生もいらっしゃる中で、ただ写真を撮るだけでなく、ジオ的な要素について解説できると、より写真に深みが増すのではないかと考えました。そこで、「ただの岩」ではなくて、「火山の噴火した溶岩が～」というように、ナゼも含めて今そこにあるまでのストーリーを説明するように心がけました。

何度も見ているような景色も、高校生は私たちと見る目線が異なり、切り取っている風景はとても新鮮で、楽しい一日となりました。



場所ごとに適した機材の解説を受ける



突撃しよう!となりのジオ便り～Mine秋吉台ジオパークからこんにちは～(Mine秋吉台ジオパーク 井上 双葉)

Mine秋吉台ジオパークは、苗場山麓ジオパークから約1,000km離れた、山口県の中央部に位置する美祢市をエリアとしています。本ジオパークでは、地球の活動によって生まれた3つの奇跡を見ることができます。

1つ目は、秋吉台の石灰岩「白の奇跡」です。日本最大級のカルスト台地である秋吉台は、約3億年前に南の暖かい海の真ん中で生まれたサンゴ礁が元となった石灰岩で構成されています。海底火山とその頂部に成長したサンゴ礁は、プレート運動により南の海から大陸まで移動しました。大半の海底火山とサンゴ礁は、海溝から地球の内部へと消えていきますが、それらの一部が、大陸プレートに偶然付加し、後から付加された堆積物に押し上げられたことで地上に現れました。

2つ目は、大嶺炭田の石炭「黒の奇跡」です。約2億5,000万年前に地球上で大量絶滅が起こった後、しばらくの間、生き物がほとんどいない環境が地球上に広がっていました。その後、小さな動物や植物が復活し、次第に大きな生物が登場しました。こうして生命復活の奇跡の末にできあがった大森林が、大嶺炭田の石炭の元となりました。

3つ目は、エリア内にいくつもある銅鉱床「赤の奇跡」です。恐竜が歩き回っていた今から約9,000万年前に、世界中で巨大な噴火が起こりました。この巨大な火山の地下には、岩石がドロドロにとけたマグマがあり、マグマのすぐ近くに石灰岩が偶然あったことで、その境目あたりに銅ができました。

この3つの奇跡は、鉱業の発展以外にも、観光地としての開発や独特な農法での耕作、鉄道の開通など、人の暮らしにも深く関わっています。例えば「白の奇跡」である秋吉台の石灰岩の内部には、空間の広さが日本最大の秋芳洞が存在し、明治42年から観光に利用されています。一方で、石灰岩地域ならではの悩みもあります。それは「水」です。石灰岩は、雨水などの酸性の水に溶けることから、地表に川ができていく代わりに、地下水系を発達させるため、石灰岩地域に暮らす人々は万年水不足だったようです。現在は上水道が整い、水不足は解消されましたが、石灰岩の主成分である炭酸カルシウムが水道水に豊富に含まれていることから、鍋やポットなどに再結晶化した石灰がたくさん付着したり、石灰がつくことで水道の蛇口が詰まったりすることもあります。

同じ日本でも、地質や地形の違いにより、様々な人の暮らしがあります。ぜひ各地のジオパークに行って、ジオツアーに参加し、それらの違いに目を向けていただければ幸いです。



秋吉台



石灰がついている鍋